

県立岐阜盲学校 事業実施報告書④

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【岐阜県】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	V 全校児童生徒希望者（12名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ゴールボール キャンプ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	・次世代選手候補者と共にゴールボール競技をすることで技術の向上を図るとともに、競技スポーツに関心をもつことができる。
5 取組内容	○事前の取組 ・2学期終業式で、昨年度の文化講演会で講演していただいた、廣瀬誠氏の講演会の以下の内容を紹介した。 ① 第1回パラリンピックの原点となった経緯、またその種目について ② 選手村で体験した選手ならではのエピソードについて ③ 「自分の人生を豊かにするキーワード」感謝、後悔、努力、自分を好きになるの4つの項目について ○ゴールボールキャンプ 講演会、体験会 ・ロンドンパラリンピック 金メダリスト 中嶋 茜氏 「パラリンピック出場を体験して思うこと」 ・全国から集まった、次世代選手候補者とゲーム形式でゴールボールを体験した。生徒たちは、競技力を向上したいという意欲をもつことができた。小学部の児童は、中嶋茜氏からゴールボールの基本的な動作を学ぶことができた。



6 主な成果	児童生徒の感想 ・パラリンピックに興味が出てきた。 ・パラリンピックの選手になることは難しくても、何かにチャレンジしていきたい。 ・ゴールボールをやるのは初めてだけど、もっとやってみたいと思った。 等の感想を児童生徒から聞くことができた。 ・今までに体験したことのない練習方法や指導を受けることで、充実した時間を過ごすことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・講師自身が、ゴールボールに取り組むようになったきっかけを話していただいた。 ・講演会では、視覚に障がいがあることで困ったことや、どのように対応したかを具体的に話していただいた。 ・体験会を行うことで、全国の視覚に障がいがある選手と交流することができた。
8主な課題等	・当校の全ての児童生徒がゴールボールを体験することは、競技の特性上難しいため、希望者で実施した。参加できなかった児童生徒には、講演会の内容を掲示板で伝えることにした。こういった活動を、教師が意図的に組み込んでいくことで、オリンピック・パラリンピックに興味をもち、運動への意欲に繋げていきたい。
9来年度以降 の実施予定	・生徒が競技力を向上していくためには、指導者の力量も重要になってくるため、指導力向上に努めていきたい。